

真菌医学研究センター Monthlyセミナー

平成30年4月10日(火) 16:00~17:00
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

DA-Rafによるがん抑制と肺胞形成の機構 ：肺腺がんの抑制とCOPDの治療に向けて

千葉大学大学院理学研究院 生物学研究部門

遠藤 剛 教授

Rasによって活性化されるERK経路 (Raf-MEK-ERKリン酸化カスケード) は細胞増殖や細胞分化などの多様な細胞機能や生理学的機能を担っている。

しかしRasの活性化突然変異はERK経路の恒常的活性化を介して細胞の異常増殖を引き起こし、がん化につながる。

私たちが発見したDA-Rafは、Ras-ERK経路に拮抗して、活性化突然変異KRASによるがん化を抑制するがん抑制蛋白質である。

一方、肺胞形成の過程においては、DA-RafはRas-ERK経路を抑制して肺胞の中隔を形成することにより、肺胞形成をもたらす。

本セミナーではDA-Rafを利用した、活性化突然変異KRASによる肺腺がんの抑制や、肺胞中隔の崩壊による肺気腫の症状などを伴う慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の再生治療が期待されることを紹介する。

主催：千葉大学 真菌医学研究センター

【連絡先】千葉大学 真菌医学研究センター (真菌センター支援係)

Tel: 043-226-2495 E-mail: vab5903@office.chiba-u.jp